

令和2年度

消防本部 総務課の方針書

組織名	消防本部 総務課
所属長名	松井 洋悦

1. 組織の使命(ありたい姿)

職員育成の充実と消防団との連携強化により、消防力の向上を図る

2. 組織の抱える課題(現状)

- 1、公務災害や交通事故、不祥事やハラスメントなどの事故防止
- 2、消防関係の各種資格取得の推進
- 3、消防団との連携強化

3. 今年度の『スローガン』

「ONE TEAM」 ～ ふるさとを護る ～

4. 今年度の方針

- 1、消防力向上のための人材育成
- 2、資格取得の推進と福利厚生
- 3、消防団とのさらなる連携強化

5. 今年度の重点取組項目

(1)	実現したい成果	消防力向上のための人材育成
	取組内容	1、消防職員としての自覚保持と服務規程の遵守 2、交通安全研修を含む各種研修を計画のもとに実施 3、真摯に消防職員を目指す人材の確保
(2)	実現したい成果	資格取得の推進と福利厚生
	取組内容	1、消防業務で使用する資格取得の推進 2、職員の健康管理と健康診断再検診率の向上
(3)	実現したい成果	消防団とのさらなる連携強化
	取組内容	1、消防団への加入促進事業の推進 2、消防団の資機材、装備品の充実

6. 方針に対する年度上期(4月～9月)の取組状況

(1) 消防力向上のための人材育成

- ・新型コロナウイルス感染症対策の影響で事業や研修などは中止や延期が発生したが、感染対策を講じた上で実施可能な講習会などを企画、開催及び参加した。
- ・消防職員採用試験は23名の申込者があり、昨年の16名より大幅に増加した。

(2) 資格取得の推進と福利厚生

- ・消防業務で使用する資格のうち、大型自動車免許と小型船舶操縦免許について助成する要綱(案)を、策定に向けて進めている。

(3) 消防団とのさらなる連携強化

- ・消防団員数は機能別消防団員が増加したが、基本消防団員は減少している。
- ・消防団応援の店が1店舗増の10店舗となった。
- ・今年度計画分の消防団員用半纏は納品済、防災用長靴は11月までに納品予定となっている。

7. 年度下期(10月～3月)に向けた課題と取組方針【ギャップと対策】

(1) 消防力向上のための人材育成

- ・各種研修に関しては、関係機関と連携し、研修可能なものは対策を講じて実施する。
- ・採用試験は公平性を保ち、優秀でやる気のある職員の採用を目指す。

(2) 資格取得の推進と福利厚生

- ・職員の免許取得の促進、円滑な消防業務の推進を図る。
- ・職員の健康管理については、健康診断の再受診率向上を図る。

(3) 消防団とのさらなる連携強化

- ・消防団加入促進事業は、広報を中心とした現対策を継続実施していく。
- ・消防団員用資機材購入事業は、今年度計画分は11月まで納入となる見込みだが、来年度も継続する複数年事業であるので、予算の獲得を含め事業を確実に実行する。

8. 総括(取組みの結果と成果、次年度に向けた課題【結果と成果】)

(1) 消防力向上のための人材育成

- ・ハラスメント対策講習会を初めて開催した。有効な対策講習会であり、交通安全講習会との兼ね合いを見て今後も実施して行く。
- ・職員採用について、最終合格者3名を決定し発表した。受験者が今年度23名(前年度16名)と増加し、その分優秀な人材が確保できた。

(2) 資格取得の推進と福利厚生

- ・「消防職員資格取得助成金要綱」を11月に制定施行した。年度内に大型自動車運転免許の新規取得者3名に助成される予定であり、資格取得の推進、自己負担の軽減につながった。
- ・健康診断の再受診は、現時点も未受診者への再周知を行っているが、年度末までの100%再受診を目指す。

(3) 消防団とのさらなる連携強化

- ・消防団員数は、3月1日時点で13名の減少であるが、基本消防団員が33名の減少と多くなっている。新たな対策及び対策の強化が必要である。消防団協力事業所は2事業所増の62事業所、消防団応援の店も2店舗増の11店舗で、さらなる増加を目指す。

令和2年度

消防本部 予防課の方針書

組織名	消防本部 予防課
所属長名	熊谷 浩

1. 組織の使命(ありたい姿)

持てる知識、技術及び資機材を最大限に活用し、市民の負託にこたえる

2. 組織の抱える課題(現状)

- 1、防火対象物の消防設備違反の是正
- 2、住宅用火災警報器の設置率向上
- 3、事務効率の向上

3. 今年度の『スローガン』

「ONE TEAM」 ～ ふるさとを護る ～

4. 今年度の方針

- 1、飲食店等(特定防火対象物)の消防設備違反の是正
- 2、住宅用火災警報器の設置推進
- 3、事務効率と能力の向上

5. 今年度の重点取組項目

(1)	実現したい成果	消防設備違反の是正
	取組内容	1、令和2年3月現在、自動火災報知設備が未設置の重大違反9対象物に違反処理を執行 2、令和2年3月現在、飲食店で消火器未設置違反36施設に是正指導
(2)	実現したい成果	住宅用火災警報器の設置率向上
	取組内容	1、未設置世帯を主に訪問広報 2、設置済世帯へは設置済シールの配布と機器維持管理の広報
(3)	実現したい成果	事務の効率化と職員の能力向上
	取組内容	1、事務処理運用基準等の作成 2、勉強会の主催と各署への事務移管

6. 方針に対する年度上期(4月～9月)の取組状況

- (1) 消防設備違反の是正
 - ・重大違反は6施設是正、消火器未設置違反は27施設是正。
- (2) 住宅用火災警報器の設置率向上
 - ・コロナ禍により効果的な広報活動ができなかった。
- (3) 事務の効率化と職員の能力向上
 - ・昨年度の事務案件は検証中、今年度は新たに検査事務について着手。

7. 年度下期(10月～3月)に向けた課題と取組方針【ギャップと対策】

- (1) 消防設備違反の是正
 - ・違反ゼロに向けて違反処理を執行。
- (2) 住宅用火災警報器の設置率向上
 - ・チラシ広報の全戸配布、コロナウイルスの感染防止を徹底し戸別訪問を実施。
- (3) 事務の効率化と職員の能力向上
 - ・職場内の勉強会を立案し実施。

8. 総括(取組みの結果と成果、次年度に向けた課題【結果と成果】)

- (1) 消防設備違反の是正
 - ・違反施設3施設のうち2施設にあつては、是正に向けて工事中である。残り1施設にあつては、指導を強化し是正に努める。
 - ・飲食店の消火器未設置9施設にあつては、年度中に是正する見込みである。
- (2) 住宅用火災警報器の設置率向上
 - ・コロナ禍において個別訪問に苦慮した半面、チラシや広報誌等を利用し幅広く広報できたが設置率向上にはつながらなかった。次年度においては、感染防止を徹底し未設置世帯を中心に個別訪問を強化する。
- (3) 事務の効率化と職員の能力向上
 - ・検査事務と建築物消防同意についての効率化は完結している。次年度は事務処理運用基準の完成に向けて、規定、要綱等の見直しに着手する必要がある。
 - ・コロナ禍により研修会等が中止になったため、組織内勉強会を強化して行った。

令和2年度

消防本部 警防課の方針書

組織名	消防本部 警防課
所属長名	中川原 宏

1. 組織の使命(ありたい姿)

災害現場対応能力向上に努め、市民の負託にこたえる

2. 組織の抱える課題(現状)

- 1、分署統合後の運用出動計画の検証
- 2、安全管理体制のさらなる強化
- 3、管理体制の強化と隊員教育

3. 今年度の『スローガン』

「ONE TEAM」 ～ ふるさとを護る ～

4. 今年度の方針

- 1、災害対応能力の向上
- 2、計画的な教育訓練と安全管理
- 3、車両更新などの計画事業の完全実施

5. 今年度の重点取組項目

(1)	実現したい成果	災害対応能力の向上
	取組内容	1、特定地域における警防計画の検証 2、分署統合における車両運用計画、指揮隊運用計画の検証 3、消防団との連携強化に向けた各署(ブロック)との訓練実施
(2)	実現したい成果	計画的な教育訓練と安全管理
	取組内容	1、安全管理体制の強化に向けた隊長級の指揮隊訓練の実施 2、救急隊員の更なる能力向上に向けた訓練実施 3、各種資格取得後の訓練実施
(3)	実現したい成果	車両更新などの計画事業の完全実施
	取組内容	1、消防署、消防団の車両、資器材の更新 2、消防水利の計画的な整備と維持管理 3、車両資器材等の適切な管理、運用

6. 方針に対する年度上期(4月～9月)の取組状況

(1)災害対応能力の向上

- ・警防計画に入っていない密集地区再調査は調査開始している。
- ・車両運用計画は、管轄する署の出動が多くなり、時間差はほとんどない。はしご車が今年度更新のため、設定調査を改めて実施。指揮隊運用は、指揮隊隊長となる副署長が交代制として夜間休日にも対応している。
- ・消防団連携強化に向けた訓練については、コロナ禍により各種訓練が中止。コロナウイルス感染症対策として団員に対して研修を18回実施。消防訓練大会が中止のため、各ポンプの故障を防ぐため毎月点検を実施。

(2)計画的な教育訓練と安全管理

- ・訓練中のけが人が発生している。安全管理の再徹底を通知。
- ・救急隊の更なる能力向上に向けた訓練実施については救急係長会議を2回実施、指導救命士を中心に教育内容を統一し、ブロック訓練を6回実施。
- ・各種資格取得後の訓練実施については特別救助資格者に対して業者による研修を2日間実施。

(3)車両更新などの計画事業の完全実施

- ・今年度は、はしご車をはじめとする消防署車両が1台、消防団車両軽積載車6台が議会の議決承認となり発注している。はしご車は、発注工場にて職員による中間検査を実施。
- ・消防水利の計画的整備と維持管理については昨年度繰越した新設防火水槽2基は工事完了。今年度分2基は測量設計も終わり、新設防火水槽工事は発注済。消防水利の点検は完了済。
- ・車両資器材の適切な管理運用については、安全に対する指導、教育の徹底、業者による機械点検を実施。

7. 年度下期(10月～3月)に向けた課題と取組方針【ギャップと対策】

(1)災害対応能力の向上

- ・増田地域伝統建造物群の警防計画の検証については重伝建保存地区関係者、文化振興課、南分署と協議し下半期(10月)に訓練検証する予定。
- ・密集地区再調査は、積雪期に状況が大きく変化することから、冬季における調査も実施していく。
- ・冬季における小型ポンプ等の故障も多いことから、冬季に向けた管理等を徹底し、毎月実施している点検を継続。

(2)計画的な教育訓練と安全管理

- ・安全管理の再徹底に向け、隊長級の指揮隊訓練を署と合同で実施していく。
- ・救急隊の更なる能力向上については、新任救命士合同訓練を計画、訓練参加救命士も評価し訓練を実施していく。
- ・各種資格取得後の職員の研修については、労働安全衛生規則の一部改正により、チェンソー作業の特別教育を受講した職員による研修が必須のため、職員に対する研修を実施していく。

(3)車両更新などの計画事業の完全実施

- ・はしご車や消防団軽積載車6台など納車が控えている。順調に推移しており、納期までの完了に向け関係機関と連絡を密に協議し進める。
- ・消防水利の計画的整備と維持管理については今年度新設工事予定の防火水槽2基については関係各課との連絡を密に協議、調整し工期内に完了すように進めていく。
- ・車両資器材の管理運用については、適切な管理が出来るように今後もさらに徹底していく。

8. 総括(取組みの結果と成果、次年度に向けた課題【結果と成果】)

(1)災害対応能力向上

- ・増田地域伝統建造物群の警防計画の検証については、重伝建保存地区関係者、関係機関、南分署と協議し訓練検証を行っている。今年度において、消火栓等の消防水利が完成した。これに伴いこの地区をブロック分けし訓練を実施したい意向もあり、次年度以降関係者と協議し実施していく。
- ・密集地区の調査を実施し、夏季と降雪期の確認した。次年度も継続調査する。
- ・消防団との連携強化に向けた訓練についてはコロナ禍において訓練ができなかったが、消防団員に対してコロナ感染対策研修会を実施、毎月小型ポンプ等の点検を実施したことにより、早期に故障箇所の確認ができた。次年度も点検を実施したことにより、早期に故障箇所の確認ができた。次年度も点検を継続していく。

(2)計画的な教育訓練と安全管理

- ・安全管理の徹底に向けて隊長級の指揮隊訓練を実施した。訓練中の公務災害が発生していることから、今後も訓練、研修を実施していく。
- ・救急隊の更なる能力向上について係長会議を4回実施、また、同じテーマで訓練を実施、統一を図った。また、新任救命士合同訓練も隊全体を評価し全体の向上を図った。
- ・各種資格取得後の職員の研修については、労働安全衛生規則の一部改正により、チェンソー作業の特別教育を受講した職員により職員に対する研修会を実施した。今後も、テーマを決め研修会を実施していきたい。

(3)車両更新などの計画事業の完全実施

- ・はしご車、消防団軽積載車が2月で配備が完了している。次年度も、関係機関と連絡を密に実施していきたい。
- ・消防水利の計画的整備と維持管理については、新設防火水槽4基が11月に完成している。来年度も、早期に着工、完成できるように関係各課と密に協議し、調整していく。
- ・車両資器材の管理運用については、適切に管理徹底について通知したほか業者における機械点検を実施した。次年度にあっても、各職員が適切に管理できるように指導していく。

令和2年度

消防本部 通信指令室の方針書

組織名	消防本部 通信指令室
所属長名	鈴木 勉

1. 組織の使命(ありたい姿)

消防隊や救急隊とともに市民に信頼される通信指令員

2. 組織の抱える課題(現状)

- 119番通報の対応力向上
- 高機能指令センターの更新
- 働きやすい執務環境の整備

3. 今年度の『スローガン』

「ONE TEAM」 ～ ふるさとを護る ～

4. 今年度の方針

- 通信指令員の教育体制の充実
- 災害に備えた高機能指令センターの充実強化
- ワークライフバランスの実現と心身に関する健康管理対策の推進

5. 今年度の重点取組項目

(1)	実現したい成果	通信指令員の教育体制の充実
	取組内容	1、119番通報における電話対応・指令技術の伝承 2、指導救命士による口頭指導のレベルアップ 3、システム停止訓練など、各種訓練の実施と訓練内容の検討
(2)	実現したい成果	災害に備えた高機能指令センターの充実強化
	取組内容	1、高機能指令センターに対する市民啓発の促進と適正な維持管理の継続 2、高機能指令センター更新に向けた取り組み 3、Net119緊急通報システムの導入
(3)	実現したい成果	ワークライフバランスの実現と健康管理の推進
	取組内容	1、年次休暇の取得促進(働き方改革)と休憩時間の確実な確保 2、風通しの良い職場作りと心身の健康障害の予防推進

6. 方針に対する年度上期(4月～9月)の取組状況

- (1) 通信指令員の教育体制の充実
 - ・各種災害を想定した訓練を毎日実施している。特に119番通報時の口頭指導訓練には力を入れており、通信指令員のスキルの向上を図っている。
- (2) 災害に備えた高機能指令センターの充実強化
 - ・市民への啓発の手段としている「いきいきサロン」は、10件中7件が中止となり、コロナ禍の影響で十分な啓発活動ができなかった。
 - ・Net119緊急通報システムは、当初計画どおり7/10に運用開始した。登録説明会を3日間実施し、現在5名が登録している。8月にはアンケート調査を行い更なる利用促進を図っている。
- (3) ワークライフバランスの実現と健康管理の推進
 - ・年次休暇の取得については、計画的に進めている。冬季・夏季休暇は全職員100%取得した。

7. 年度下期(10月～3月)に向けた課題と取組方針【ギャップと対策】

- (1) 通信指令員の教育体制の充実
 - ・下半期、県の主催で「通信指令員の救急業務に関する教育」を実施する旨の説明があった。全国的にも通信指令員の資質の向上が求められているものと感じている。本講習を受講するほか、今後も教育体制を充実し、日々の訓練を重ね、通信指令員のレベルアップを図り、消防隊や救急隊が迅速、確実に活動できる体制を構築する。
- (2) 災害に備えた高機能指令センターの充実強化
 - ・「いきいきサロン」は、今後も開催にあたり、3密回避の基準に準じて実施することになるが、コロナ禍の中、できる範囲で市民啓発に力を入れていく。
 - ・高機能指令センター更新に向けた取り組みでは、今後の更新時期を見据え、県の消防広域化会議の動向を注視しながら、関係機関等と協議を行い、更新計画の策定に取り組んで行く。
- (3) ワークライフバランスの実現と健康管理の推進
 - ・年次休暇の取得については、計画的に進め、全職員最低5日を目指す。今後も休暇取得でリフレッシュを図り、心身の健康管理に努める。

8. 総括(取組みの結果と成果、次年度に向けた課題【結果と成果】)

- (1) 通信指令員の教育体制の充実
 - ・通信指令員の資質の向上のため、年間を通し、各種訓練を実施した。119番通報時の口頭指導係の訓練には特に力を入れた。通信指令員のレベルアップが図られ、災害の初動段階で最も重要な119番通報の受付など、通信指令業務を滞りなく、遂行できたものと捉える。今年度初めて「通信指令員の救急業務に関する教育」が実施され3名が参加した。その後、その者を講師として、勉強会を実施した。全国的にも救急に関する通信指令員の資質の向上が求められているものと感じている。今後も教育体制を充実し、特に救急要請に対する通信指令員の更なるレベルアップを図る必要がある。
- (2) 災害に備えた高機能指令センターの充実強化
 - ・今年度、コロナ感染症の影響により、各種イベントが中止になったほか、通年実施している「いきいきサロン」も予定の半分以上が中止(25回実施予定中、14回中止)となり、市民の皆さんに対する十分な啓発活動ができなかった。次年度は、例年のとおり講習会を実施し市民啓発に力を入れて行くが、今後のコロナ感染症の状況を踏まえた広報活動が必要になってくるものと捉える。
 - ・高機能指令センター更新に向けた取り組みでは、今後の更新時期も見据え、県の消防広域化会議の動向を注視しながら、関係機関との協議を重ね、次年度以降、より実効性のある更新計画の策定を進める。
- (3) ワークライフバランスの実現と健康管理の推進
 - ・職員間で勤務調整を図るなど、休暇の取りやすい環境作りに努めた。(年次休暇平均12.4日)
 - 健康面では、風邪症状で一人が休暇を取ったが、その他の職員に病気休暇は出なかった。休暇取得で心身のリフレッシュが図られ、滞りなく、通信指令業務を遂行できたものと捉える。今後も、ストレスの未然防止など、心身の健康管理に努める必要がある。

令和2年度

消防署の方針書

組織名	消防署
所属長名	菊地 俊宏

1. 組織の使命(ありたい姿)

市民から頼られる消防であること。(職員一人ひとりが任務に誇りと使命感を持つ)

2. 組織の抱える課題(現状)

- 1、新たな時代にふさわしい消防職員の育成
- 2、頻発する自然災害に対する消防力の強化

3. 今年度の『スローガン』

「ONE TEAM」 ～ ふるさとを護る ～

4. 今年度の方針

- 1、人材育成
- 2、活動隊の安全管理
- 3、確実な業務遂行

5. 今年度の重点取組項目

(1)	実現したい成果	人材育成
	取組内容	1、災害現場で指揮を任せられる隊長の育成 2、若年職員の育成と指導職員のレベルアップ 3、専門知識を得るための講習を実施
(2)	実現したい成果	活動隊の安全管理
	取組内容	1、指揮隊による安全な活動現場指揮 2、車両及び資機材整備と管理の徹底 3、消防団との連携体制の確立
(3)	実現したい成果	確実な業務遂行
	取組内容	1、消防法令の重大違反防火対象物を是正 2、情報共有による業務の遂行 3、働きやすい環境づくり

6. 方針に対する年度上期(4月～9月)の取組状況

- (1) 人材育成
 - ・毎日の教養訓練では、訓練リーダーを指名し実施したことにより指導のレベルが向上。
 - ・係長が中心となり職員への講習を実施した。
- (2) 活動隊の安全管理
 - ・災害現場での安全管理体制を確立するため指揮隊からの活動方針を徹底した。
 - ・訓練中の受傷事案が2件発生したため再発防止に向けて安全管理に重点をおいて活動した。
 - ・消防団との連携を強化するとともに消火技術の向上を図るため消防団への放水訓練指導を実施した。
- (3) 確実な業務遂行
 - ・重大違反(特定防火対象物)3施設中2施設が違反解消。新たに1施設の違反を覚知。
 - ・報告書類について期日と担当者を決め業務の偏りを無くし確実に処理にあたらせた。

7. 年度下期(10月～3月)に向けた課題と取組方針【ギャップと対策】

- (1) 人材育成
 - ・火災が昨年と比較して少なく実践でなければ得られない経験が不足している。消火活動や隊の連携についてはブロック訓練で補っていく。
 - ・新規採用者が消防学校初任科を修了し通常の勤務に就いた。様々な業務をこなせるよう教養訓練を若年者教育内容に切り替えていく。
- (2) 活動隊の安全管理
 - ・現場での公務災害、事故防止に向けて出勤した職員一人ひとりが、危険な現場で活動をしていることを自覚し、隊長及び指揮隊が安全管理に徹して指揮を執っていく。
 - ・車両や積載資機材の不具合が発生しており、点検管理を十分に行うと共に取扱要領を熟知させる。
 - ・消防団への放水訓練指導を通じて様々な災害現場での後方支援が重要で不可欠であることを周知させる。
- (3) 確実な業務遂行
 - ・重大違反防火対象物の関係者は、違反を是正しなければならないことを認識していることから早急な違反解消に向けた指導を重ねていく。
 - ・新型コロナウイルス対策で救命講習内容が感染防止を図った指導方法となっている。避難訓練等にも感染予防を図った指導方法を検討する。

8. 総括(取組みの結果と成果、次年度に向けた課題【結果と成果】)

- (1) 人材育成
 - ・若年職員の建物火災に対する能力向上を目的に訓練施設を使用して合同ブロック総合訓練を実施した。指導者からの評価を受けて訓練項目の基本と応用については、所属署において反復訓練を行ったことにより能力向上の目的が達成できた。
 - ・専門的分野の各種業務について、職員や外部講師による講習会を実施し人材育成が図られた。
- (2) 活動隊の安全管理
 - ・災害現場で事故防止に努め特に消火活動では受傷事故が発生していない。指揮隊の安全管理活動に成果が見られた。
 - ・消防車両・資機材等の整備と点検管理は、担当者だけでなく車両隊長が確認を行い破損や故障防止に努めていく。
 - ・消防団との連携は各種訓練大会が中止となったが、講習会や放水訓練を通じて現場での活動連携が執れる体制ができている。
- (3) 確実な業務遂行
 - ・重大違反防火対象物への是正指導によって特定防火対象物の違反件数9件(立入検査実施により違反覚知含む)の内6件の違反が解消された。引き続き違反是正に向けて指導を強化する。
 - ・避難訓練や消防署見学は、新型コロナウイルス対策として人数制限やマスクの着用、手指消毒等で感染予防を図りながら実施した。
 - ・働きやすい環境づくりとしては、惨事ストレスを抱える職員の早期発見と対応するべき出勤後の隊ミーティングや日常的に声掛けを行うことにより惨事ストレスの発見、緩和に努めておりストレスを抱えている職員はいない。

令和2年度

消防署 山内分署の方針書

組織名	消防署 山内分署
所属長名	近 義久

1. 組織の使命(ありたい姿)

市民の目線になって考え行動し、もって負託に応える。

2. 組織の抱える課題(現状)

- 1、個人能力を向上させ組織力を向上
- 2、山間部の災害対応
- 3、職場環境の質の向上

3. 今年度の『スローガン』

「ONE TEAM」 ～ ふるさとを護る ～

4. 今年度の方針

- 1、安全確実な消防業務の遂行
- 2、災害対応能力の向上
- 3、働きやすい職場環境づくり

5. 今年度の重点取組項目

(1)	実現したい成果	安全確実な消防業務の遂行
	取組内容	1、現場を全体的に把握し、危険を予知できる目を養う。 2、全乗車隊員が確実に安全確認を行い、無事故を目指す。 3、各係間の確実な情報共有による業務遂行と惨事ストレスへの迅速な対応。
(2)	実現したい成果	災害対応能力の向上
	取組内容	1、個人の能力、地利状況に応じた消防訓練を行う。 2、関係機関との顔の見える交流を図り、災害時の連携を円滑にする。 3、災害時の地域局、消防団との連携強化を図る。
(3)	実現したい成果	働きやすい職場環境づくり
	取組内容	1、ハラスメントを防止し、職員の仕事への意欲を高める。 2、年次有給休暇等を有意取得できるようにし、肉体精神面でのストレス軽減に努める 3、個人からの相談に対し積極的に傾聴し、問題解決に努める。

6. 方針に対する年度上期(4月～9月)の取組状況

- (1) 安全確実な消防業務の遂行
 - ・災害や出向時など車両、現場活動状況の安全確認は出動隊員全員が行い、無事故を継続している。
 - ・各係間の情報共有を積極的に行い、連携ミス防止に努めている。
- (2) 災害対応能力の向上
 - ・若年者訓練を含め教養訓練は170回実施。訓練参加者全員が安全管理に重きを置いて取り組み、実災害での事故防止に反映している。
 - ・感染症流行に伴い連携訓練などが軒並み中止となっているが、普段から関係機関との連絡を密にして連携強化に努めている。
- (3) 働きやすい職場環境づくり
 - ・ハラスメントは確認されていない。
 - ・年次休暇取得目標の5日間で12人中8名が取得。未取得者については積極的に取得するよう指導している。夏季休暇については9月中まで全職員が完全取得。
 - ・休暇取得を積極的に促し、心身共に健康で無理のない職場環境を心掛け実践している。
 - ・職員相互のコミュニケーションを深めるため、積極的に相談に乗り、良好な関係構築に努めている。

7. 年度下期(10月～3月)に向けた課題と取組方針【ギャップと対策】

- (1) 安全確実な消防業務の遂行
 - ・引き続き確実な安全確認、情報共有を行うことで無事故を目指す。
 - ・災害活動後、訓練後、活動に対する個々の振り返りを行うことで危険を予知できる目を養う。
- (2) 災害対応能力の向上
 - ・教養訓練等は、実施回数、内容とも予定どおり実施している。今後は季節、地域の実情に合わせた訓練を実施することで、現場活動に反映させていく。
 - ・引き続き地域局や消防団、関係機関との連携を密にし災害対応にあたる。
- (3) 働きやすい職場環境づくり
 - ・一部職員に年次休暇取得目標の5日間の未取得がみられるため積極的な取得を促す。
 - ・下期も職員の健康、精神状態の把握に努め、ストレスを与えない良好な職場環境作りに努める。

8. 総括(取組みの結果と成果、次年度に向けた課題【結果と成果】)

- (1) 安全確実な消防業務の遂行
 - ・全職員で確実な確認と情報共有を図るとともに、各活動後は危険予知能力向上のための振り返りを行い、現場活動や日常業務における安全性、確実性の向上が図られている。
 - ・今後も、安全意識の共有徹底と活動後のフィードバックを充実させ、安全確実な業務の継続性を確保していく。
- (2) 災害対応能力の向上
 - ・コロナ禍においても、安全管理を主眼とした若年者訓練など教養訓練を282回実施し、個々の能力向上と関係機関との連携強化により災害対応力の向上が図られている。
 - ・今後も、訓練要領の創意工夫と他署との連携により、少ない勤務人員においても日常訓練を充実させていくとともに各種訓練を通じて関係機関との連携を深め、地域情勢に見合った災害対応力をさらに向上させていく。
- (3) 働きやすい職場環境づくり
 - ・職員相互の積極的な対話によるコミュニケーションにより、職員間の意思疎通が深まるとともに、他署との業務連携により全職員が年間5日以上以上の休暇を取得し、心身のリフレッシュを図ることにより、ハラスメントのない良好な職場環境と職務の充実が図られている。
 - ・今後も、対話によるコミュニケーションを積極的に図るとともに、年次休暇の取得勧奨や心身の健康管理を継続し、働きやすい職場環境を推進していく。

令和2年度

消防署 南分署の方針書

組織名	消防署 南分署
所属長名	木島 秀明

1. 組織の使命(ありたい姿)

安全、確実、迅速、有効な活動で災害による被害の軽減を図り、市民の安全を護る

2. 組織の抱える課題(現状)

- 1、現場対応力向上のための人材育成
- 2、公務災害を根絶するための安全管理体制の強化

3. 今年度の『スローガン』

「ONE TEAM」 ～ ふるさとを護る ～

4. 今年度の方針

- 1、消防力向上のための人材育成
- 2、確実な業務の遂行
- 3、災害に強いまちづくり

5. 今年度の重点取組項目

(1)	実現したい成果	消防力向上のための人材育成
	取組内容	1、若手職員の育成と隊長級職員の指導力、対応力の向上 2、機関員の育成と車両、資機材の適切な管理運用 3、消防職員としての自覚を保持しハラスメント防止 4、職場環境の安全と質の向上を図るため5S励行・・・整理、整頓、清掃、清潔、躰(習慣づけ)
(2)	実現したい成果	確実な業務の遂行
	取組内容	1、安全管理の徹底と危険予知で公務災害根絶 2、確実な車両運用で無事故、無違反 3、職務上抱える虞のある惨事ストレスの把握と対応
(3)	実現したい成果	災害に強いまちづくり
	取組内容	1、火災による被害軽減を図るため防火対象物の消防用設備等の違反是正 2、消防団、地域局との連携強化

6. 方針に対する年度上期(4月～9月)の取組状況

(1) 消防力向上のための人材育成

- ・若手職員の育成と隊長級職員の指導力、対応力の向上を図るため、訓練安全計画に基づき196回訓練実施。
- ・機関員の育成は、CAFS装置付消防ポンプ自動車機関員について6名が取得。取得後も継続的に訓練を行い、車両、資機材の適切な管理運用に努めている。
- ・朝のミーティングやコンプライアンス等の機会に話し合いの場を設け、現時点でハラスメントは確認されていない。
- ・職場環境の安全と質の向上を図るため5S(整理、整頓、清掃、清潔、習慣づけ)を励行。

(2) 確実な業務の遂行

- ・訓練時における安全管理事項の伝達やヒヤリハット事例を共有することで、公務災害ゼロ及び公用車の無事故、交通違反ゼロを継続中。
- ・出勤後に隊ミーティング等を行うとともに、日常的に声掛けを行うことで惨事ストレスの発見、緩和に努めている。

(3) 災害に強いまちづくり

- ・重大違反对象物の消防法令違反について、8対象物のうち7対象物について違反は正済み。
- ・消防団、地域局との連携強化について、今年度はコロナウイルスの影響もあり各地区防災訓練等の機会を捉えての連携は図られていないが、災害現場において連携した活動を行うことで連携強化に努めている。

7. 年度下期(10月～3月)に向けた課題と取組方針【ギャップと対策】

(1) 消防力向上のための人材育成

- ・若手職員の育成と隊長級職員の指導力、対応力の向上を図るため、今後も継続して訓練を実施する。
- ・機関員の育成について今後、A級(CAFS車含むタンク車)機関員2名、B級機関員1名、C級機関員1名について養成する予定。また、取得後においても車両、資機材の適切な管理運用を図るため、訓練を継続する。
- ・ハラスメントについて、話し合いの機会を多く設けることで防止を図る。
- ・職場環境の安全と質の向上を図るため、今後も5S(整理、整頓、清掃、清潔、習慣づけ)を継続する。

(2) 確実な業務の遂行

- ・訓練や事故事例を共有することで、今後も公務災害ゼロを継続する。
- ・冬期が近づいていることから、公用車の無事故、無違反について、今まで以上に慎重な車両運用を行えるよう教育と訓練を継続する。
- ・惨事ストレス対策について、早期発見と早期対応を図れるようミーティングと情報共有を継続して行う。

(3) 災害に強いまちづくり

- ・火災による被害軽減を図るため、今後も違反对象物への指導を継続する。
- ・消防団、地域局との連携強化を図るため、今後も密な連絡体制を維持する。

8. 総括(取組みの結果と成果、次年度に向けた課題【結果と成果】)

(1) 消防力向上のための人材育成

1. 若手職員の育成と隊長級職員の指導力、対応力の向上
若手職員の育成と隊長級職員の指導力、対応力の向上を図るため、訓練安全計画に基づき232回訓練実施。若手職員の育成と隊長級職員の指導力、対応力の向上を図るため、今後も継続して訓練を実施する。
2. 機関員の育成と車両、資機材の適切な管理運用
機関員の資格取得について、CAFS装置付消防ポンプ自動車機関員6名取得、A級(CAFS車含むタンク車)機関員2名取得、B級機関員1名取得、C級機関員1名取得。取得後も継続的に訓練を行い、車両、資機材の適切な管理運用にあたる。
3. 消防職員としての自覚を保持しハラスメント防止
朝のミーティングやコンプライアンス等の機会に話し合いの場を設け、現時点でハラスメントは確認されていない。ハラスメント防止について、今後も話し合いの機会を多く設けることで防止を図る。
4. 職場環境の安全と質の向上を図るため5S励行・・・整理、整頓、清掃、清潔、躰(習慣づけ)
職場環境の安全と質の向上を図るため5Sを励行。今後も継続していく。

(2) 確実な業務の遂行

1. 安全管理の徹底と危険予知で公務災害根絶
訓練時における安全管理事項の伝達やヒヤリハット事例を共有することで、公務災害ゼロを継続中。今後も訓練において注意事項を伝達するとともに、事故事例を共有することで、公務災害ゼロを継続する。
2. 確実な車両運用で無事故、無違反
公用車の無事故、交通違反ゼロを継続中。今後も公用車の無事故、無違反について、今まで以上に慎重な車両運用を行うよう教育と訓練を継続する。
3. 職務上抱える虞のある惨事ストレスの把握と対応
出勤後に隊ミーティングを行うとともに、日常的に声掛けを行うことで惨事ストレスの発見、緩和に努めている。惨事ストレスの早期発見と早期対応を図れるようミーティングと情報共有を継続して行う。

(3) 災害に強いまちづくり

1. 火災による被害軽減を図るため防火対象物の消防用設備等の違反是正
重大違反对象物の消防法令違反について、今後も指導を継続する。
2. 消防団、地域局との連携強化
消防団、地域局との連携強化について、各種災害現場において連携を図ることで連携強化に努めている。今後も消防団、地域局との連携強化を図るため、密な連絡体制を維持する。

令和2年度

消防署 平鹿分署の方針書

組織名	消防署 平鹿分署
所属長名	原田 明宏

1. 組織の使命(ありたい姿)

危機管理を徹底し、安全確実な活動で市民の負託にこたえる

2. 組織の抱える課題(現状)

- 1、様々な災害形態に迅速に対応できる人材育成
- 2、南分署、西分署運用に合わせた、広域的な活動の強化と連携

3. 今年度の『スローガン』

「ONE TEAM」 ～ ふるさとを護る ～

4. 今年度の方針

- 1、多方面で活躍できる人材育成
- 2、安全確実な業務の遂行
- 3、災害に強いまちづくり

5. 今年度の重点取組項目

(1)	実現したい成果	多方面で活躍できる人材育成
	取組内容	1、若年職員の教育訓練、新規機関員養成 2、救急隊員のスキルアップ 3、新規配備車両、救助資器材の継続訓練で、能力を最大限に発揮する
(2)	実現したい成果	安全確実な業務の遂行
	取組内容	1、安全管理の徹底、職員間での危険情報の周知共有 2、調査報告等の期限厳守 3、職員の健康管理、ハラスメント防止に努める
(3)	実現したい成果	災害に強いまちづくり
	取組内容	1、多様化、大規模化する自然災害への対応強化 2、無水利地区を中心とした、自然水利の再検証 3、関係機関と連携した住宅用火災警報器の普及啓発

6. 方針に対する年度上期(4月～9月)の取組状況

- (1)多方面で活躍できる人材育成
 - ・今後機関員を目指す職員の教育として、農業用水路、敷地内防火水槽を使用した揚水訓練を実施。また、業務出向時や救急事案の引揚げ時などを利用し、普通走行での運行訓練を実施した。
 - ・若年者教育として救助想定訓練、救急基礎医学についての座学、予防業務全般の座学など、月間予定以外にも機会を捉え実施した。
- (2)安全確実な業務の遂行
 - ・ヒヤリハット事案の検討、危険予知トレーニングを実施した。
 - ・仮想災害点を想定し、現場までのルート、走行に関する注意点の検討などを実施した。
 - ・期限のある調査報告事務の一覧表を作成し、全職員での情報共有を図りチェック体制を強化した。
 - ・惨事ストレスミーティングは、8月まで2件の該当事案があり実施した。
 - ・執務中のマスク着用を徹底し、受話器、ドアノブなど執務環境の定期的な消毒を実施した。
- (3)災害に強いまちづくり
 - ・大雨警戒時の巡回に、ため池を加えハザードマップを基に強化した。
 - ・倒壊危険建物(対象建物2件)の確認を、関係機関と合同で実施し、対応についての連携を強化した。
 - ・地域局、消防団、民生委員と連携し、住警器設置の広報と取り付けサポートを継続している。

7. 年度下期(10月～3月)に向けた課題と取組方針【ギャップと対策】

- (1)多方面で活躍できる人材育成
 - ・10月に救急救命東京研修所を卒業する職員の卒後フォローアップ、及び訓練の充実を図る。
 - ・新規機関員養成・・・A級2名、B級1名、C級1名。
- (2)安全確実な業務の遂行
 - ・訓練前の資器材、施設の点検、訓練後のフィードバックにて安全管理の再確認を行う。
 - ・PC保存データの整理を行い、情報管理を徹底する。
- (3)災害に強いまちづくり
 - ・国営水路取水停止時の対応として、巡邏計画及び戦術の再検討を実施する。
 - ・大規模な火災につながる危険性の高い地域の調査を進める。
 - ・住警器設置状況を精査し、効果的な広報にて設置率向上を目指す。

8. 総括(取組みの結果と成果、次年度に向けた課題【結果と成果】)

- (1)多方面で活躍できる人材育成
 - ・今年度1名が救急救命東京研修所を卒業し国家試験を終了した。また、来年度入所予定職員の学習も実施している。
 - ・機関員養成について、4名が認定を受け目標を達成した。さらに大型免許取得者、取得見込みが各1名となっている。
- (2)安全確実な業務の遂行
 - ・車両、資器材の不具合が数件発生したことから、点検および確認についてのミーティングを実施。再発防止を徹底した。
 - ・PC保存データの整理を実施した。情報の管理と共有を図り安全で迅速な作業につなげている。
- (3)災害に強いまちづくり
 - ・今冬の豪雪に伴い、水利の除排雪を計画的かつ状況に応じて実施した。
 - ・地域局、消防団、民生委員との連携により、住警器の設置率向上が図られた。

消防署 西分署の方針書

組織名	消防署 西分署
所属長名	石山 浩

1. 組織の使命(ありたい姿)

確実に災害対応できる人材を育成し市民の安全を護る。

2. 組織の抱える課題(現状)

- 1、多様化し危険性が増す災害現場に対応できる人材育成及び消防力の強化
- 2、西分署開署後の3地区(雄物川、大森、大雄)に対する円滑なサービスの提供

3. 今年度の『スローガン』

「ONE TEAM」 ～ ふるさとを護る ～

4. 今年度の方針

- 1、人材育成
- 2、事故ゼロを活動の基本とした迅速かつ安全確実な業務遂行
- 3、西分署統合を契機とした災害に強いまちづくり

5. 今年度の重点取組項目

(1)	実現したい成果	人材育成
	取組内容	1、災害現場指揮を任せられる隊長の育成。 2、若年職員に対する教育訓練を継続し消防力の強化を図る。 3、運転、機械操作に必要な専門知識及び技能を有する各種機関員を養成し消防戦術の幅を広げる。 4、各種資器材の取り扱い訓練を繰り返し応用力の向上に取り組む。
(2)	実現したい成果	事故ゼロを活動の基本とした迅速かつ確実な業務遂行
	取組内容	1、職員間で危険情報を共有し事故ゼロを目指す。 2、資器材の管理と整備の徹底を図る。
(3)	実現したい成果	西分署統合を契機とした災害に強いまちづくり
	取組内容	1、地理水利の把握をはじめ随時警戒巡回を実施し火災予防を図る。 2、消防職員と消防団員の合同訓練を実施する。 3、担当3地区(雄物川、大森、大雄)の住宅用火災警報器設置率向上を図り火災による犠牲者0を目指す。

6. 方針に対する年度上期(4月～9月)の取組状況

(1) 人材育成

- ・災害現場想定訓練および、教養訓練を実施し隊長級の育成に努めた。
- ・若年職員に対し、1人60回の教養訓練を実施。
- ・各種機関員の資格取得に向け、走行訓練22回、揚水訓練17回実施。
- ・若年職員を含め分署内全体で訓練に取り組み、応用力及びチームワークの向上に努めている。

(2) 事故ゼロを活動の基本とした迅速かつ確実な業務遂行

- ・毎朝のミーティング時にヒヤリハットの共有を行っている。
- ・資器材管理簿を基に定期的に管理確認し、資器材使用後には適正な整備を実施している。

(3) 西分署統合を契機とした災害に強いまちづくり

- ・勤務時の地水利調査では全体の把握に時間がかかりすぎるため、非番日を活用し地水利の把握に努めている。
- ・通常の警戒巡回出向に加え、各種業務出向時に警鐘を鳴らしながら警戒に努めている。
- ・消防団との合同訓練については新型コロナウイルスの影響もあり1回の実施にとどまっている。
- ・住宅火災警報器設置率向上については新型コロナウイルスの影響もあり、個別での家庭訪問を自粛したため各地区とも1%未満の向上率にとどまっている。

7. 年度下期(10月～3月)に向けた課題と取組方針【ギャップと対策】

(1) 人材育成

- ・上期の訓練を振り返り、さらなる向上を目指し訓練計画を策定し実施する。

(2) 事故ゼロを活動の基本とした迅速かつ確実な業務遂行

- ・毎朝のミーティング時にヒヤリハットの共有を継続する。
- ・定期的な資器材管理を継続するとともに、適正な整備を怠らない。

(3) 西分署統合を契機とした災害に強いまちづくり

- ・月間予定および秋の火災予防運動に地水利調査を組み込む他、降雪期には積極的に水利の除排雪を実施し把握に努める。
- ・火災予防の観点からも、各種業務出向時に併せた警戒巡回を継続する。
- ・消防団との合同訓練については、今後の新型コロナウイルス対策の動向を注視し、可能であれば複数回訓練を実施する。
- ・住宅火災警報器設置率向上については、今後の新型コロナウイルス対策の動向を注視し、可能であれば個別での家庭訪問を実施し設置率向上に努める。

8. 総括(取組みの結果と成果、次年度に向けた課題【結果と成果】)

(1) 人材育成

1. 消防士長クラスに対する現場想定訓練を6回実施し、現場で指揮を執れる隊長級の育成が図れた。
2. 若年職員に対して教養訓練を実施し、消防力の強化を図る事ができた。
3. 機関員としての専門知識及び技能を磨き、8名が機関員資格を取得することができた。
4. 資格取得のみを目標とせず、各種資器材の取り扱い訓練を繰り返し実施し更なる技術の向上を目指している。

(2) 事故ゼロを活動の基本とした迅速かつ安全確実な業務遂行

1. 公務災害等が発生したが、事故後直ちに検討会を実施し今後の事故防止を目指す体制づくりに努めた。
2. 資器材の管理については、細かい部分で目が行き届かない点があった。各係で管理と整備の徹底を図っていく。

(3) 西分署統合を契機とした災害に強いまちづくり

1. 地水利調査の出向に限らず、各種業務出向時も地水利に目配せしながら運行し地水利の掌握に努めた。また、積極的に警戒巡回を実施し、火災予防を啓発することができた。
2. 新型コロナウイルスの影響もあり、消防団員との合同訓練は1回のみの実施となった。来年度は、新型コロナウイルス感染症の感染状況を注視しながら本年度を上回る合同訓練を計画したい。
3. 新型コロナウイルスの影響もあり、住宅用火災警報器設置率向上は約1%に止まっている。来年度は、新型コロナウイルス感染症の感染状況を注視しながら住宅訪問し設置率の向上を目指したい。